



良き職場に感謝

電気制御システム工学科

浦風和裕

射水で22年、本郷で9年、あわせて30年あまりを高専の教員として過ごさせていただきました。その間、担任、授業、卒業研究、課外活動などを通し、その時々で役割で多くの学生さんたちと関わることができました。中でも、射水では高専ロボコンで何度も国技館に連れて行ってもらったことはとても良い思い出となりました。また、本郷では社会貢献活動として企業との共同研究に多く携わらせてもらい、本校への関心と期待の高さをあらためて感じることができました。このような良き職場で長く過ごすことができたのも、才能と個性の豊かな学生さんたち、そして多大なご支援をいただいた教職員の皆様のおかげとひとえに感謝しております。



ありがとうございました

商船学科

笹谷敬二

昭和5年(1930年)に旧文部省航海練習所 地方商船学校練習帆船として建造された帆船 日本丸 の最終航海(1984年)に一番若い航海士として勤務できたことや、同じ富山県に回航されてきた帆船 海玉丸 の展帆ボランティア育成やマスト、ヤード、シュラウド類の新替え等の改修工事に従事できたことは良い思い出となっております。新湊の町の方々が私財を投じて創設100年以上に渡り外航船舶職員を養成し続けてきた本校に平成19年に着任した時に、先の事柄が自分にとって縁があったのかなと思つたものです。我が国が四方を海で囲まれた国である以上、今後の100年も世界の海を股に活躍する船舶職員を輩出する学校であってほしいと願っております。皆さん、ありがとうございました。

Table with school contact information including address, phone numbers, and website.



感謝で一杯！

物質化学工学科

川淵浩之

母校富山高専に赴任して36年(学生時代も含めると41年)。いつの間にか定年を迎える年になっていました。あっという間でした。その中で、無限の可能性を持った学生達が成長して行く現場に立ち会う難しさの反面、感動の場面や涙が出るくらい嬉しい場面も随分ありました。また、学生に何かを教えることより、学生から教えられることの方が多くありました。全て私の財産となっています。あきらめることが失敗につながり、成功するまでやり続けることが成功への秘訣らしいので、今後もチャレンジ精神で進みたいと思っています。皆様のご協力のおかげでたくさんの経験をさせていただき、本当に感謝の言葉しかありません。ありがとうございました。



退任にあたり

事務部長

山内浩一

事務部長の山内です。昭和56年に18歳で熊本大学に奉職、今年の4月に定年を迎えます。この節目の日を迎えることができるのは、ひとえに皆様のお陰であり、自身ほっとしております。大変お世話になりました。高専、とりわけ富山高専で、校長先生や副校長先生、各主事の先生、事務職員と一所懸命業務に励み、時には、ビビリするような諸問題に取り組み、すべてに充実感を得ながら学校運営や学生の成長の手助けを遂行して参りました。このような日々を感慨に浸りながら退職の日を富山高専で迎えることができるのは、自身大変な幸せであると感じております。残り僅かな日々ではありますが、本校のため全力を尽くしたい所存であります。よろしくお願いたします。



「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022東海北陸地区大会」が令和4年10月23日(日)にAGF鈴鹿体育館にて開催され、本郷キャンパスAチーム「SKY×FAMILY(スカイファミリー)」、Bチーム「回る本郷寿司(マウルホンゴウズシ)」、射水キャンパスAチーム「田圃補完計画(タンポホカンケイカク)」、Bチーム「一擲千機(イツテキセンキ)」が参加しました。本郷キャンパスAチーム「SKY×FAMILY」がアイデア賞、本郷キャンパスBチーム「回る本郷寿司」が特別賞(マブチモーター株式会社)を受賞しました。本郷キャンパスAチームが令和4年11月27日(日)に両国国技館で開催されたアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022に出場し、特別賞(本田技研工業株式会社)および高専制度創設60周年記念特別賞(チャレンジ賞)をダブル受賞しました。チャレンジ賞は今年度高専制度創設60周年を記念して特別に設けられた賞で、新たな技術やパフォーマンスに積極的に挑戦したチームに与えられる賞です。



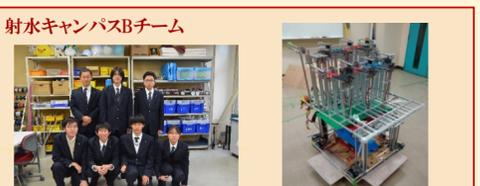
チーム紹介 私たち本郷Aチームは3、4年生が主体となって活動してきたチームです。見ている人が楽しめるロボットを作ることをコンセプトに今年の高専ロボコンに向けてロボットの作成を進めてきました。結果として東海北陸地区大会を突破し、全国大会では本田技研工業株式会社様からの特別賞と、高専60周年記念のチャレンジ賞を受賞することができました。ロボット紹介 私たちのチームのロボットのコンセプトは「親子」です。モーショントラッキングを用いて、人とロボットの動きをリンクさせた紙飛行機の射出がこのロボットの一歩の見所です。また装飾にもかなりこだわっており、子供ロボットの表情をマトリックスLEDを用いることで場面に応じて変化させることができます。



チーム紹介 今年のチームは私が初めてチームリーダーとして指揮をとったチームでした。先輩方にアドバイスをもらい、チームメンバーと相談しながら、初めてロボコンに関わる1年生とともに、今年のロボコンの機体を作り上げました。不慣れなことたくさんありましたが、様々な人の助けがあって、思い出に残るチームだったと思います。ロボット紹介 今年のBチームの機体のテーマは、皆さん大好き、「回転寿司」です！！射出する紙飛行機を回転ずしの「寿司ネタ」に見立て、ゴムが仕掛けられた「皿」に乗ってレーンを移動し、射出位置でゴムが外れ、紙飛行機が射出される仕組みです。目標に紙飛行機を乗せるために、ゴムの強さの調整など思考錯誤を重ねた結果、地区大会では1点獲得し、マブチモーター株式会社から特別賞を頂きました。

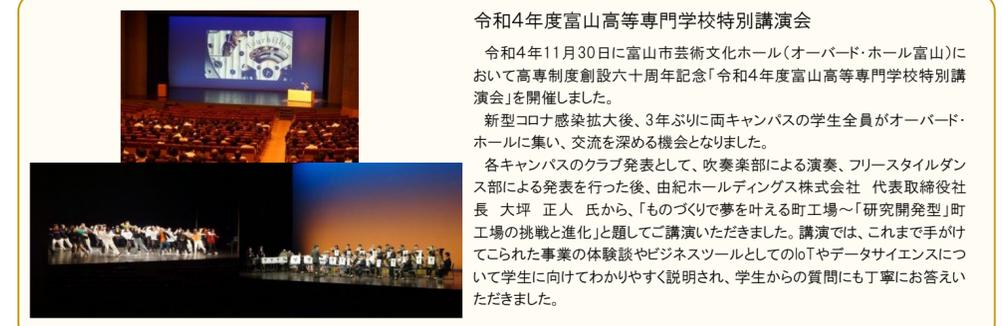


チーム紹介 Aチームのメンバーはほとんどが初出場、経験不足でした。会場では動作不良が続出し、数多くのトラブルに見舞われました。それでもスタートの合図がなるまで諦めずにみんなで協力してロボットを完成させました。大会終了後は何度もロボットの改善点を話し合い、次回大会に向けさらに研究・制作を行っています。ロボット紹介 Aチームのロボット「田植えIII世」は6機の紙飛行機を一齐に射出することができます。紙飛行機は狙った位置に正確に飛ばすことが難しいため、一度に飛ばす紙飛行機の量を増やすことで高得点を狙いました。また、1個のモーターだけで一連の射出ができるよう工夫し、機構の簡略化、軽量化、低消費電力化を実現しています



チーム紹介 コロナ禍が落ち着き、2年ぶりに現地での開催となったロボコン、それはチームメンバーの全員が初めての経験で、想定外のトラブル続きでした。Bチームは満足にロボットを動かすことはできませんでしたが、持ち前の粘り強さと明るく、最後まで諦めずに戦い、現地開催のロボコンを全力で楽しむことができました。ロボット紹介 Bチームのロボット「空母とねりこ」の特徴は、ずばり、質より量です。一度にたくさんの紙飛行機を飛ばそうと、射出機構を6基、小型モータをべ12個搭載しています。また、定荷重ばねを使った収納と、メカナムホイールを使った素早い移動で、大量の紙飛行機を迅速に運びます。その重厚な見た目は、まさに空母です。

本校教育プログラムが、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定教育プログラム(リテラシーレベル)プラスとして認定、および、同認定制度(応用基礎レベル)として認定 令和3年6月30日付で「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル*1)」として認定されていた富山高専専門学校の教育プログラムが、令和4年8月24日付けで「認定教育プログラム(リテラシーレベル)プラス」として富山県内で初めて認定されました。今回認定された多くの大学・高専等のリテラシーレベルの教育プログラムの中でも、本校の教育プログラムは先導的で独自の工夫・特色を有するものとして、特に「リテラシーレベル(プラス)」として認定されました。本校の教育プログラムは、工学系4学科、商船学科、文系の国際ビジネス学科の全ての学生が必修科目として開講され、富山高専技術振興会の企業と取り組む特徴があります。「リテラシーレベル(プラス)」は令和3年の認定開始以来、全国の大学・高専のなかで認定されたのは18校のみです。また、令和2年度から電気制御システム工学科および電子情報工学科で実施している教育プログラムが、リテラシーレベルよりも上位の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル*2)」として認定されました。 *1:リテラシーレベル 全ての大学・高専生が身につけるべき「デジタル社会の基礎知識」の習得(いわゆる「読み・書き・そろばん」的な素養) *2:応用基礎レベル リテラシーレベルよりも上位の認定で、「自らの専門分野への数理・データサイエンス・AIの応用基礎力」の習得



令和4年度富山高専専門学校特別講演会 令和4年11月30日に富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール富山)において高専制度創設六十周年記念「令和4年度富山高専専門学校特別講演会」を開催しました。新型コロナ感染拡大後、3年ぶりに両キャンパスの学生全員がオーバード・ホールに集い、交流を深める機会となりました。各キャンパスのクラブ発表として、吹奏楽部による演奏、フリースタイルダンス部による発表を行った後、由紀ホールディングス株式会社 代表取締役社長 大坪 正人 氏から、「ものづくりで夢を叶える町工場〜「研究開発型」町工場の挑戦と進化」と題してご講演いただきました。講演では、これまで手がけてこられた事業の体験談やビジネスツールとしてのIoTやデータサイエンスについて学生に向けてわかりやすく説明され、学生からの質問にも丁寧に答えいただきました。

緑の中でほっと一息プロジェクト 高専機構の「高専生の学びを高めるキャンパス創造プロジェクト」事業において、射水キャンパスでは「緑の中でほっと一息プロジェクト」と銘打って、奈古の浦会館南側の整備を行いました。これまで利用されていなかった緑地帯に、花壇とベンチを設置してつるげる空間を作りました。学生会の役員や総務委員、美化委員、ボランティアの学生など多くの学生が協力し、花壇の製作から花苗の植え付けを行いました。天気の良い日には、日差しのもとで友達と談笑し、気分をリフレッシュすることもできます。また、奈古の浦会館のテラスも使って、いろいろなイベントを開くこともできます。クラブの発表の場として利用することが可能です。活用方法をいろいろと考えて、積極的に利用してください。

高専通信

卒業・修了記念号 Vol.38 2023/3 富山高専専門学校広報誌

目次 1 校長よりお祝いのメッセージ 2 卒業生・修了生から一言 3 卒業生担任・副専攻科長から一言 4 卒業生・修了生進路一覽 5 退任教職員あいさつ 6 ロボコン紹介 7 ニュース&トピックス



